



目次／連月カレンダー／偉人のことば … 1

教えて、先生! … 2
不合理を活かす私学経営とは？

Y's NEWS／吉田のことば … 5

学校法人会計を読みこなそう(中級編) … 6
第5話 本当に大切な分析指標はどれ？！

School Management Review … 8
校外での「総合学習」推進

2018年12月吉日

No.53

2018年12月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2019年1月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



偉人のことば

天知る、地知る、我知る

(後漢書)

ある学者から推薦され、役人になった人物が、そのことを恩義に感じ、推薦してくれた学者に賄賂を贈ろうとします。

夜なのだから誰にも気づかれませんかよ、といったその役人に対し、学者は「天地の神も知っているし、何より私もあなたも知っているではないか。誰も知らずに不正を行うことなどできない」と言い放ったといいます。どこかの誰かに聞かせたい話だとは思いませんか。

もともとは「天知る、神知る、我知る、子(なんじ)知る」。今回表題に記したのは私が最初に耳にしたときのフレーズです。一番大切なのは「自分が知っている」というところ。どんなことをしていても、それをしている自分自身は必ずそれを自覚しているはずです。

さて、あなたはこのフレーズをどこの誰に聞かせたいと思いましたか。とある政治家さんですか？ 各種団体のお偉いさんですか…？ いやいや、忘れてはいけません。聞かせるべきは「私自身」であることを。

教えて、先生！

不合理を活かす私学経営とは？

学校の「経営」にスポットを当ててお届けしているこの紙面。いよいよ大御所、経営学者の登場です！今回ご登場いただくのは龍谷大学政策学部教授・中森孝文先生です。中森先生には学生時代からお世話になっており、弊社の顧問も務めていただいております。実際に教育活動、研究活動に従事されているからこそのお話を期待して研究室にお邪魔し、貴重なお話をたくさん伺ってきました。（インタビュアー 吉田俊也）



中森孝文先生プロフィール

最終学歴 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了
学位 博士(経営学・神戸大学)、修士(法学・京都大学)
職歴 京都工芸繊維大学地域共同研究センター助教授(准教授)
立命館大学経営学部 准教授などを経て
2011年4月より 龍谷大学政策学部 教授 現在に至る
専門 経営学、知的資産経営、ローカルビジネス、地域連携

■「アホなことをまじめにやる」

ー学生時代からお世話になっているので今さらインタビューというのも照れくさいのですが…今日はよろしくお願いします。

いつも「えにしの会(※1)」では刺激をもらっていますよ。みんな偉くなったのに親身にいろいろ教えてくれるから、本当にありがたいです。

ーそれは私のセリフです！当社の顧問にまでなっていたので本当にありがたい限りです。中森先生は現在大学教授としてご活躍ですが、最初に出会った頃は公務員でいらっしゃいましたよね。

経産省の近畿経済産業局に勤めていました。当時の職場は若手のいろんな提案を聞き入れてくれました。働きながら大学院で学ばせてもらったり、仕事でも新しいことをさせてもらいました。忘れられない思い出は、当時毎月発行していた「マンスリーきんき」という情報誌での連載ですね。役所の情報誌ですから硬い情報ばかりで読んでいても全然面白くない(笑)。そこでユニークな社長を訪ねて経営のコツを紹介する「おもしろ社長訪問」という連載を始めたのです。その取材が面白くてね。いろんな経営上の知恵や工夫を伺いました。その時の経験が今の仕事にもつながっているんだと思います。

ーなるほど、先生の企画力はそのころからすでに高かったんですね。

とにかく、面白いことが好きなんですよね。言葉は悪いんですが「アホなことをまじめにやる」ことが特に面白くて。他人から見ると「それってどんな意味があるの？」と思われるようなことでも、真剣にそれを学んだり研究したりしている人がいるとすごいなあ、と思うんです。

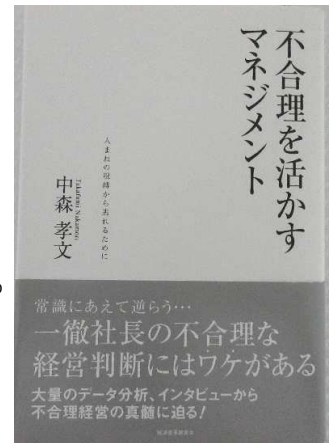
■不合理さが強みを生む

ーそれって、先生のご専門である「知的資産(※2)経営」と関連がありそうなお話ですね。

知的資産というのは知的財産と間違われることが多いのですが、人の知的な活動から生まれる強みという面では同じです。でも知的財産は特許や意匠といった強みのストックに着目していますが、知的資産はその強みを生み出して活かす仕組みまで含むのです。強みを持っていることだけが大事なのではなくそれをどう生み出すのか、どう使うのかというフローがとても大切で、知的資産は社長の意思決定や従業員のやる気を引き出す仕組みなど、マネジメント全体を見ないとその価値がわからないのです。

ーそうだったんですか。最近出版された書籍では、強みになるものとして「不合理」が重要だと書かれていたね。

合理的なことばかりやっているとギスギスするんですよ。儲からないからリストラする、なんていうのは合理的な考え方の極みでしょう。むしろ、不合理なことから知的資産、強みが生まれると感じています。敢えて短期的な利益を犠牲にする、という不合理があつてこそ、ユニークな知恵が生まれて組織は強くなっていくものだろうと思うんです。



中森先生の近著「不合理を活かすマネジメント」

—一見不合理なことが強みにつながる、というのはとても興味深いです。教育の分野ではなおのことそれがあてはまりそうな気がします。

先日テレビを見ていたら、蚊の研究をしている高校生が出演していて、妹が蚊に刺されやすいのはなぜか、を突き止めるために妹を実験台にして蚊が好む原因を突き止めていました。また、ある研究者にフンコロガシの話聞いたことがあります。フンコロガシは蠅と壮絶なバトルをやっているそうです。蠅に卵を産み付けられると糞の価値が下がってしまうので、奈良公園では鹿の糞の取り合いが起こっているとか(笑)。家で蚊を飼ったり、公園で鹿の糞を眺めることなどは、まさに「好きなことを大まじめにやる」という典型例ですね。

学校の場合、経営指標としてよく用いられるのは「進学実績」ですが、家で蚊を飼うことや、公園で鹿の糞を眺めることは、一見して進学実績とはまったく無関係のこととれます。そんなことよりも英単語の一つでも覚えろと言いたくなるでしょう。ある側面から見ると、彼らの行動はまさに不合理な行動なわけですよ。でも、誰もやらないようなことを徹底してやるのが学問への興味を深め、より高度な研究をしたいという欲求に繋がって、学校にとっては結果的にすごい人材を送り出すことになる。あとから進学実績がついてくる、というのはおそらく不思議なことではないでしょう。

—なるほど、そうですね。そしてそのような自由さは私学のほうが実現しやすいのかもしれないね。

私の勤務する龍谷大学もそうですが、私学では教員1人当たりの学生数が国公立大よりも多いので、それだけ学生の多様性があるはずなんです。だから私学では型にはめるような教育よりも、その多様性を活かすような教育環境が大切なんだと思います。その重要なキーワードはおもしろさだと思うのです。

—一方で、これからますます少子化が進み、私学経営はいつそう難しさが増すようにも感じます。今後の私学経営について、ぜひアドバイスをお願いします。

どの学校においても必ず強みがあります。長年の学校経営の中で意図してつくられた強みもあれば、気づいたら強みになっていた、というものもあるかもしれませんね。例えば高い進学実績を誇る私学の中には、先ほどの例にあったように、進学のための勉強よりも「何かに打ち込める環境」をより重視しているケースもあります。回り道のように見えるものこそが、その学校の進学力を支えていることだって少なくないわけです。まさに一見して不合理な考え方というものが必要なのです。本当の強さは不合理さの中に生まれると思います。合理性の追求は皆がやりますから、究極は紋切り型になります。そこから個性は生まれません。誰もが真似ない、真似できないことをやることそのものが学校の知的資産と言えるでしょう。私学では独自の知的資産に気付くこと、そしてその知的資産をどう活用するのかを考え実践することが、遠回りに見えて本当は近道なのだろうと思います。

■ 学生のために最善を尽くす

—話は変わりますが、中森先生は大学でゼミ生にとっても慕われていらっしゃいますよね。

去年、1年間アメリカに在外研究で赴任したので、その間はゼミも開講できないはずだったんですが、学生の側からは是非ゼミを開いてほしいという要望があったので、スカイプで遠隔ゼミをやりました(笑)。赴任先の大学教授が、「在外研究中でも授業をやっているのか」ってびっくりしていましたよ。



中森先生の研究室にて

—ところが一方で「ブラックゼミ」と呼ばれているという噂も聞きましたが…本当ですか？

本当です(笑)。通常ゼミ(演習)の時間は週あたり90分です。ところが中森ゼミは午後3時から始まって午後9時頃に終わることもめずらしくありません。それどころか、正規のゼミの時間とは別に「自主ゼミ」と称して学生が自主的にゼミをやっています。先日はある人に「体育会系のクラブみたいやなあ」って言われました(笑)。ゼミでは取って代われないことに挑戦していますから、文献調査はもちろん、企業訪問、街でのインタビューやアンケート調査など、やるが多くていくら時間があっても足りません。また高度な統計分析も駆使しますから、ゼミ生はデータを読むセンスを高めるために、何度もデータを分析してはその解釈をするために、チーム内で侃侃諤諤の議論をほぼ毎日やっています。また、最近ではデザインまでやったりもしています。

—デザイン…ですか？

はい。一昨年のゼミの課題は、「デニムの似合う企業」の指標を作って、最もデニムの似合う企業用に、デニムをデザインして贈呈するってことをやりました。勝手に指標を作って勝手に評価して、勝手にデザインして贈呈するという超勝手な取り組みです(笑)。そんな勝手すぎる取り組みでも、京都の大学が多数参加している第4回グローバル人材フォーラムという学生の研究成果の発表会で、グランプリをいただきました。デニムの似合う企業というわけのわからない指標の開発だけでも大変なのに、その上、デニムのデザインまでするわけですから、学生も大変ですよ(笑)。

ーそれはさぞ大変だったことでしょう(笑)。そんなに大変なゼミでも応募される学生さんが多いとか。何故なのでしょう？

多いかどうかわかりませんが、毎年の募集人数は埋まります。自分自身を鍛えたいという人もいますし、就職率が毎年100%というのに惹かれてくる人もいられるかもしれません。でも、応募してきた学生が本当にゼミにFit(適合)するかわかりません。応募者と面談(面接)をしても、蓋を開けると自分で汗をかかずにタダ乗りする「フリーライダー」だったということもあり得ます。そこで、「何がフリーライダーを生むのか」と考えていたら、ひらめいたのです。それをゼミの研究テーマにしよう(笑)。さらに、「面接をしてもしなくても結果は同じではないか」と考えていたら、またもやひらめきました。一回、面接しないで採ってみよう(笑)。結果的に良いゼミ生が集まりました(笑)。ですから、今年のゼミでの研究テーマは「フリーライダーを生む要件」と「面接に対するアンチテーゼ」です。これらの研究を進展させて、問題の多い就活に新たな方策を提案したいと思っています。

ーそういう先生がいるからこそ、就職率100%が継続されるんでしょうね。

特別に就職率を意識して指導しているわけではありません。個々の学生にしっかり向き合って、丁寧にサポートすれば、学生自身が自らの強みを発揮してくれるはずなんですよね。昨今、就職活動の時期をめぐるような発言がなされていますが、その論拠として「大学教育をしっかり受けさせるべき」というものがあります。ところが文系の場合、実際の就職面接においては、大学でどんな専門教育を受けてきたかを問われることがほとんどありません。つまり、建前では大学教育が大事だと言われながら、採用する側も採用される側も結果的に重視していないことが多いのです。これでは大学教育の価値が高まるはずはありません。学生時代に学んだことがその学生の将来に役立つ「強み」となるよ

うに、もっと言えば、それを持っていることそのものが学生の自信につながるように、との想いで多くの時間を学生とともに過ごしています。



書架には数多くの書籍が並んでいました

ー入学してこられた学生さんの将来を見据えた支援をされているんですね。

一部のトップ校を除き、多くの大学に通う学生は「がっかり入試」組、すなわち第1志望ではない大学に通わざるを得ない学生たちも少なくないというのが現状です。それをどう巻き返すかが非常に重要で、そのために早い段階からねじを巻いて自信をもたせてあげることが大事だと考えています。私自身がそうであるように、学生時代は決して勝ち組ではない人でも、コツコツと頑張れば「強み」が得られ、自信をもって人生が送れることを学生に理解してほしいと思っています。

今回のインタビューは何と3時間！紙面に書ききれないボリューム、そしてオフレコでしかお届けできないような内容も盛りだくさんでした。中森先生には「録音禁止ならセミナーでしゃべってもいいよ～」とおっしゃっていただきましたので、次年度早々にセミナーを開催することにいたしました(2019年4月18日(木) 13:00~15:00)。詳しくは弊社HP等でご案内いたします。ご参加をお待ちしております！



龍谷大学深草キャンパス構内

※1:えにしの会…大学院時代の仲良し4人(中森先生と弁護士2名+吉田)で構成されている懇親会の名前。

※2:知的資産…人材、技術、組織力、顧客とのネットワーク、ブランド等の目に見えない資産のことで、企業の競争力の源泉となるもの。特許やノウハウなどの「知的財産」だけではなく、組織や人材、ネットワークなどの企業の強みとなる資産を総称する幅広い考え方であることに注意が必要。(経済産業省HPの説明を一部加工し抜粋)



～コンサルティングの現場より～

年度末が近づくと気合を入れねばならないことのひとつが「学校評価アンケート」。

「やろうとしていることが保護者や子供達にちゃんと伝わっているのだろうか」

ということ聞き出すのが学校評価アンケートの最大の目的、ではないでしょうか。

調査票の作成から集計、分析、報告会の実施…今年度のご支援はすでに始まっています。

そして、アンケートの結果を活かすのはその後の活動です。

日常に埋没せぬよう、活動計画に織り込み、進捗管理をしていくためのしくみを整えていきます。

同時に、会議や打ち合わせでそのことに触れ、経営課題を忘れないようにするのも私たちの役目です。

吉田のことば



ワイズコンサルティング代表の吉田がよく口にする言葉をご紹介します。

あせらず、たゆまず

どこでどう出会ったのかは忘れてしまいましたが、この言葉は大人になってからしばしば頭に浮かぶ言葉です。

頑張っている人、成功した人を見ると、自分の情けなさを責め、それをうらやむばかりで努力もせぬまま日々を過ごす…焦るんじゃない。でも、弛むのではない。適度な緊張感を持ちながら着実に目標に向かうことの大切さを噛みしめます。

ゴムひもは引っ張り続けるとそのうち伸縮性を失う、だからこそ強く引っ張ることもあれば緩めるときも必要。

改めてこの言葉を調べてみると「倦まず弛まず」が正しいようです。個人的には「あせらずたゆまず」が好きだなあ。

【この問題は法律的にどうなるのだろうか？ ～私たち弁護士にご相談ください】

●学校法務に関するご相談～雇用・契約・ハラスメント・トラブル対応など

●研修・セミナーの実施～コンプライアンス、個人情報保護法への対応など

～みなさまの学校経営の支援、よりよい教育環境を実現するためのお手伝いを～

- ・法律・契約書のプロとして丁寧にお話を伺い、柔軟かつ適正な解決に当たらせていただきます
- ・法的問題が生じた際の事実調査の支援、裁判例等に基づく法律上のアドバイスをご提供します
- ・トラブルを未然に防ぐルール作りのご相談、顧問契約による総合的な法律サービスも承ります

えにし法律事務所 弁護士 矢倉良浩（奈良弁護士会所属）

〒634-0005 奈良県橿原市北八木町1丁目1-8 橿原中央ビル5階

TEL 0744-20-2662 FAX 0744-20-2663

近鉄大阪線：大和八木駅徒歩5分 ドコモショップ大和八木店向かい



えにし大阪法律事務所 弁護士 津田裕行（大阪弁護士会所属）

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目2-26 天神第一ビル904

TEL 06-6829-6317 FAX 06-6829-6318

地下鉄御堂筋線：西中島南方駅徒歩1分 日清食品ビル北向かい



2名の弁護士の協力により、全力で御校をサポートさせていただきます

学校法人会計を読みこなそう(中級編)

第5話 本当に大切な分析指標はどれ？！

法人はその種類や形態を問わず、年に1回の決算を行わねばなりません。学校法人でも毎年3月末日を決算日として決算書が作成されますよね。そしてその決算書を基に、各学校法人において決算分析がなされていることと思います。

決算分析の際に用いられるのが分析用の「指標」です。指標にはいくつも種類がありますが、学校法人対象のものとしては、以前に本連載でも採り上げた、日本私立学校振興・共済事業団(以下「事業団」といいます)作成の「経営判断指標」が知名度の上ではナンバーワンかもしれません。この指標は「財務比率等に関するチェックリスト」において活用されており、経営状態を判断するために有用なものとして位置付けられています。その指標は以下の通りです。

- ① 経常収支差額比率
- ② 人件費比率
- ③ 教育活動資金収支差額比率
- ④ 積立率
- ⑤ 流動比率

これらのうち、①と②は事業活動収支に関する比率であり、③は活動区分資金収支に関する比率、④は運用資産に関する比率、⑤は外部負債に関する比率とされています。それぞれの意義についてはここでは省略させていただきますが、いずれの指標も重要性が高いものとしてご認識いただいていることと思います。

ただ、同事業団が発刊されている「今日の私学財政」では、貸借対照表比率として20個、さらに事業活動収支計算書比率として17個、あわせて37個もの指標が列挙されています。そして弊社が実施している決算分析においては、指標

の数は98個に上ります。各指標の多くは決算書の数値を加減乗除して求められるものであるため、決算書に記載される勘定科目の数がゆうに100を超えていることからして、理論的には指標は無限に作り出すことが可能です。

決算分析は毎年恒例で実施すべきことではありますが、あまりに着眼点が多すぎるとかえって状況をつかみにくくなります。そこで大切にしていきたいのが「**自校園にとって『より大切な情報』は何か**」を見極めたくえで**指標を確認**することです。

例えば、生徒募集が順調で、収入面はそれほど問題はないけれど、校舎が手狭になってきたから大規模投資が必要になりそうだ…という学校があったとしましょう。この場合、『より大切な情報』は投資できる財力があるか、ということになるでしょう。もっと砕けた言い方をすれば、お金がどのくらいあるか、ということです。このことを頭に入れて指標を確認すると、例えば「特定資産構成比率」や「運用資産余裕比率」といった、金融資産に関する指標を重点的に確認することになるでしょう。

逆に、生徒募集に苦戦しており、これまでの収支構造が維持できなくなるのではないかと…という学校があれば、「教育活動収支差額比率」や

「人件費比率」を経年比較し傾向を知ること、あるいは「流動比率」等で手元資金が逼迫していないかどうかを知ることが重要になります。このように、『より大切な情報』は自校園によって異なりますから、状況に応じて着目すべき指標が異なることを理解しておくことが重要です。



弊社発行小冊子「学校経営ブックレット」好評発売中

学校経営ブックレットNo. 1

お申込みはinfo@ysmc.co.jpまたは06-6484-7513まで。

学校法人の決算書を読み解く ～新会計基準もこれでバッチリ！～

2017年6月刊行 A5版/全36ページ 定価250円(税別・送料別)

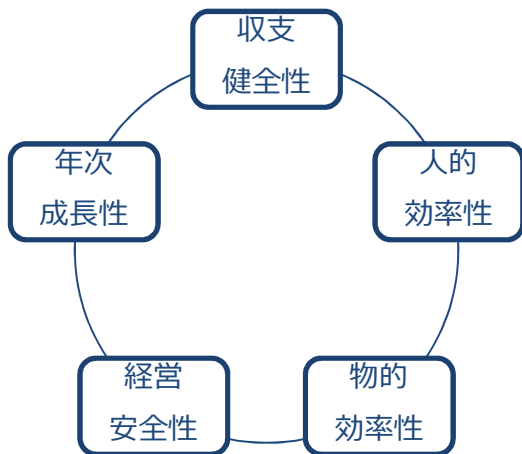
学校経営ブックレットNo. 2

学校における働き方改革 ～長時間労働は正のポイント～

2017年11月刊行 A5版/全25ページ 定価250円(税別・送料別)



さてそのうえで、数多く存在している指標のうち、どれが特に重要か、ということを考えてみます。弊社の場合、決算の分析を行う際には大きな着眼点を以下の5つとしています。



名称をご覧いただくとその中身も推測できると思います。少々分かりにくいのは「人的効率性」と「物的効率性」でしょうか。前者は収入額や収支差額を「生徒数」や「教員数」で割るのに対し、後者は「総資産」「有形固定資産」「金融資産」等で割って求めます。収入や収支差額を生み出すためのどのくらいの人的・物的な財産を用いたのか、を示すもので、「総額」ではなく「単価」に着眼した分析を行っている、とも言えるでしょう。

ではこれら5つの着眼点の中で、学校法人にとって重要性が高いのはどれでしょうか。まず最初に考えるべきは、学校法人の社会性の高さでしょう。学校法人は永続が特に強く求められる事業体ですから、その意味で倒産リスクの低さを示す「経営安全性」が最重要である、と言えるのではないのでしょうか。

そして次に重要なのはその安全性を担保するための収支構造の健全性でしょう。あるときには安全性が高くとも、その後の経過で収支構造が崩れ、収支差額が生み出せなくなってしまえば永続の根幹が揺らいでしまいかねません。よって2つめに重要なのは「収支健全性」であると言えます。

これに続くのが効率性なのか成長性なのか、非常に悩ましいところです。効率性は先ほど説明した通り「財産の活用度」を示すものであり、成長性は組織規模が拡大しているか縮小しているかを示すものです。どちらも大切な着眼点ですが、ここではやはり組織の永続という観点から、学校法人自身が計画した通りの成長が図れているかどうかを示す「年次成長性」を3番目に位置付けることとします。

これらの考察を基に、今回の表題である「本当に大切な分析指標」を右記の通り選抜してみました。

(1) 運用資産余裕比率

計算式: (運用資産 - 外部負債) ÷ 事業活動支出

運用資産とは主に「現金預金」と「特定資産」の残高から成ります(有価証券や貸付金を含むこともあります)。また、外部負債とは借入金等の「将来において支出が必要なもの」を指します。そして、事業活動支出は当該年度の人件費や経費の支出総額です。つまり、この指標は「換金性が高い資産で1年間の支出をやりくりしたら、何年持ちますか」ということを示しています。ほとんどの指標がその単位を「%」で表示するのに対し、この指標は「年」という単位でも表現できます。つまり、計算結果が「0.5」となれば、それは「半年分の支出を賄えるだけの資金が留保されている」ことを示す、というわけですから、これが1年分、あるいは2年分確保されているということは、経営の安全性が高いことを示していると言えるでしょう。

(2) 経常収支差額比率

計算式: 経常収支差額 ÷ 経常収入

これは各法人においてすでに重要性が高い指標としてご認識いただいていることでしょう。実は今回の記事を書くにあたり、この指標を採用するか、はたまた「教育活動収支差額比率(=教育活動収支差額 ÷ 教育活動収入計)」を採用するか、かなり悩みました。学校法人の本来の事業内容を考えれば、教育活動に絞って収支差額を確認すべき、との考えがその根底にあったのです。ただ今後、収入の多様化が図られていくべきとの方向性も示されつつあり、教育活動外収支も無視できない存在になる可能性があるかも、との想いで経常収支差額を採用いたしました。これは言うまでもなく、収支健全性を示す指標です。最低でもプラスの数値、できれば10%程度の数値が確保できるとよいでしょう。

(3) 生徒数(または基礎収入)の前年度比・前々年度比

計算式: 本年度生徒数 ÷ 前年度生徒数(前々年度生徒数)

成長性を測る指標もいくらかでも考えられますが、学校法人の成長度をもっとも端的に示すのは生徒数です。これを前年、前々年と比較することは日常的に実施されていることと思いますが、これが自校園の計画と比べてどうであるか、を確認することで、意図した成長が図れているかを確認することができます。なお、カッコ書きした「基礎収入」は、「学生生徒等納付金 + 経常費等補助金」で算出することができます。決算書の数値を使いたい場合にはこちらで代用されてもよいでしょう。

今回のまとめ

- ① 自校園にとって『より大切な情報』は何かを見極めたうえで指標を確認しよう
- ② 学校法人経営における重要性の順序は「安全性 > 健全性 > 成長性 > 効率性」
- ③ 3大指標: 運用資産余裕比率・経常収支差額比率・生徒数前年比

School Management Review

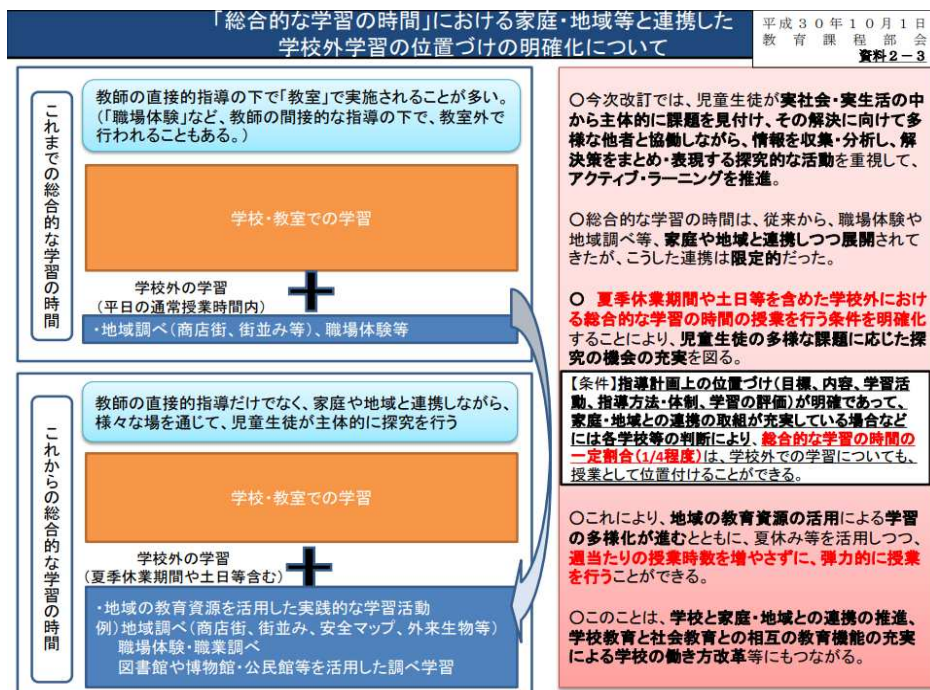
校外での「総合学習」推進

私たちが子どもの頃にはなかった授業、「総合学習」。校外学習をもっと幅広く認めようという動きが出ているようです。

日経新聞の記事を一部引用(一部筆者により加工)させていただきます。

文部科学省は(10月)1日、教科横断のテーマを扱う小中学校の「総合的な学習の時間」について、週末や夏休みを利用して校外学習を推進する案を中央教育審議会の教育課程部会に示した。指導上の目標が適切で、校外のNPO法人など児童生徒の受け入れ先との連携体制が十分取れていれば、年間授業数(70コマ)の4分の1程度まで認め、教員が引率なくともよいとする。

この制度、何と来春からスタートするそうです。そのスピード感も驚きますが、教員の引率なしで良い、という点も驚きました。その意図は「授業時間数の確保」にありそうです。



▲中央教育審議会・教育課程部会で提示された資料の一部

つまり、校外学習を平日以外に実施することで、平日の授業時間数に少しでも空きを作る。そこに外国語の授業を…なんてことを見越しているのでしょうか。校外学習は楽しみながら学べるいい機会だと思います。一方で、子どもたちが忙しくなりすぎないように配慮が必

要でしょう。そしてそれは、教職員の忙しさにも同様にあてはまる気がします。子どもたちも教職員も、どの教育内容にどのくらいの時間配分を行うのか…教育機関の専門性が問われそうです。さて、各私学はどのように対応されますでしょうか？

(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」より2018年10月17日付記事を改編し掲載)

学校経営のコンサルティングサービス

事業計画

「なりたい学校になる」
ための取組を支援します。

研修・人事制度

「一枚岩の組織に成長する」
ための取組を支援します。

財務・会計

「学校財産を有効活用する」
ための取組を支援します。



未来へつなぐ、夢がある。
株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp
URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)
Facebookページ: <https://www.facebook.com/ysconsult>

